



公益財団法人 鳥取県国際交流財団

Tottori Prefectural International Exchange Foundation
公益財団法人鳥取県国際交流財団

とっとり国際通信

TOTTORI KOKUSAI TSUSHIN / 鳥取国際通讯

No. **117**
Mar. 2016

公益財団法人鳥取県国際交流財団設立25周年記念事業
多文化共生まちづくりフォーラム
主催：公益財団法人鳥取県国際交流財団



写真 「多文化共生まちづくりフォーラムの様子」
Multicultural Town Planning Forum (Central and West Tottori)
設立25周年記念 国際交流・多文化共生推進功労者表彰的情况

目次 Contents 目录

TPIEFだより 02-03
「多文化共生まちづくりフォーラム(中・西部)」
「鳥取県・バーモント州青少年交流事業」
「話してみよう韓国語 第11回鳥取大会」

特集
「鳥取県の留学生について知りたい!」 04-05

国際交流団体の紹介 06
・鳥取ブラジル交流団体連絡協議会
・大山町日韓親善交流協会

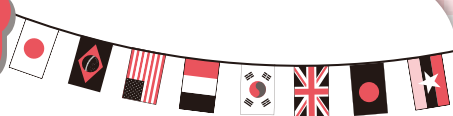
鳥取県に暮らす 07
・人気の「鳥取県のお土産」教えて!

JICAデスクよりお知らせ
・映画『クロスロード』の無料上映会のお知らせ

英語版・中国語版ダイジェスト 08-09

Information in English and Chinese
・TPIEF Bulletin
Multicultural Town Planning Forum (Central and West Tottori)
・Feature
All About Tottori's Overseas Students
英文版・中文版文摘
・TPIEF 信息
「多文化共生まちづくりフォーラム(中・西部)」
・特集
「鳥取県の留学生について知りたい!」

図書情報等 10



「多文化共生まちづくりフォーラム」(中・西部)

昨年11月の東部会場につづき、中部、西部会場で多文化共生まちづくりフォーラムを開催しました。

中部
会場

2016年1月24日(日) 伯耆しあわせの郷

ここ10年で最大寒波到来と言われる猛吹雪の中、フォーラムを開催しました。そんな悪天候にもかかわらず足を運んでくださった皆さんによって、会場は外の寒さに負けない熱い議論で盛り上がりました。

■ パネルディスカッション

中部地区在住の外国出身者3名をパネリストに迎え、各々の経験をもとにそれぞれが考える多文化共生について話し合いました。パネリストの皆さんからのメッセージを紹介します。



ラメンスカヤ アナスタシアさん (ロシア出身)
子育てについての苦労や経験を踏まえ、外国出身者にとって日本での子育てに必要なのは情報と友達だと思う。



末石ロドニーさん (アメリカ出身)
家族を大切にすること、それを実現するために努力することが最終的に地域を考え、多文化共生につながっていきます。



鈴木京花さん (中国出身)
「郷に入っては郷に従え」の精神。最初の5年は本当に辛いこともあるが、日本のやり方を知り、自分を変えていく事が大切です。

■ 座談会

パネルディスカッションに続き、パネリスト3名と地域に暮らす外国出身者をゲストに、3グループに分かれて座談会を行いました。パネリスト手作りのシナモンロール(アメリカ)やコンポート(ロシアの飲み物)、中国のお菓子やベトナムのスナックを囲み、和やかな雰囲気の中で様々な意見が飛び交いました。

日本に来て1年ほどしか経っていない外国出身者は、まさにパネルディスカッションで話が出た「最初の5年は辛い」時期にあたり、その時期を乗り越えるアドバイスとして、どんどんいろんなイベントに参加して仲間を作っていくことの重要性を他の外国出身者から助言され、気分的に楽になったようでした。日本人参加者からは「外国人だけが変わるのではなく、自分たち日本人も変わらなければならないのではないか?」という声が聞かれました。



座談会の様子▶

西部
会場

2016年1月31日(日) 米子コンベンションセンター

西部会場は、多くの来場者の皆さんによって終始賑やかに行われました。オープニングでは、パネリストの一人である岩佐ヴィヴィアンさんのダンス教室「hearty party(ハーティパーティ)」の生徒さんたちによるダンスが披露され、会場全体が大きな拍手に包まれました。そしてパネルディスカッションが始まると、パネリストの皆さんそれぞれの経験談や、その経験から感じる強い思い・メッセージを話していただき、心打たれる場面もありました。

■ パネルディスカッション

西部地区在住の外国出身者3名のパネリストの皆さんからのメッセージを紹介します。



岩佐ヴィヴィアンさん (フィリピン出身)
外国で暮らすということは決して良いことばかりではありません。しかし悩むだけでなく、悩む前に一歩進んで自ら行動することが大事です。



林 祖財さん (中国出身)
外国籍児童の皆さんには何事も恐れずチャレンジし、日本語を話すときにも間違いを恐れないでほしい。間違えることで正解が見えてきます。



マーティン バーナードさん (南アフリカ出身)
子育てには環境づくりが大事。小さい頃から子どもの姿勢を整え、筋力をつけることは総合的な成長を促します。その環境づくりを担う「親の背中」を子どもは見ています。

■ 座談会

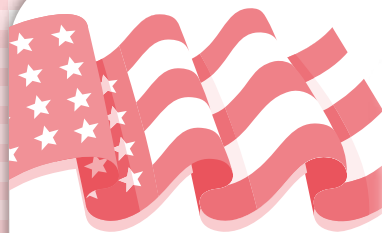
中部会場同様、西部会場でも、後半はパネリスト3名それぞれが3つのグループに分かれて座談会を行いました。会場にはフィリピンのカラマンシージュースとボルボロン(菓子)、中国のシャーチーマというお菓子、また南アフリカはマーティンさん手づくりのヘルツォーグース(ココナッツタルト)を用意し、来場者の皆さんと交流しました。

最後に、今回の全フォーラムでコーディネーターをされた鳥取大学地域学部教授の仲野誠先生が「このフォーラムは始まりである」ことを伝えて締めくくられました。今後、鳥取県での多文化共生に向けた一歩となる意義あるフォーラムとなりました。



座談会の様子▶

各会場のフォーラムに参加してくださった皆様、ありがとうございました!!



鳥取県・バーモント州青少年交流事業 アメリカへ鳥取県の 高校生を派遣しました



当財団では県内から選抜した高校生をアメリカ・バーモント州へ派遣し、現地高校生と交流する事業を実施しており、今年度は昨年10月23日～11月3日に16名の生徒を派遣しました。

今年度は特にkeeping Track (山中で野生動物・植物の生息観測を通し人間の居住環境との関係について考える活動)の際にビーバーを見ることができたり、本場のハロウィンを体験できたりしたこともとても良かったようです。



バーモントでの日程

- 1日目:バーモント州に到着!
- 2日目:ホストファミリーとの交流・歓迎会
- 3日目 } 山中でKeeping Track又は、
- 4日目 } エセックス高校、バーリントン高校に分かれ、1日高校体験(1回目)
- 5日目:州政府訪問、環境に関する行政機関、企業などを視察
- 6日目:バーモント州立大学、ミドルベリー大学を視察
- 7日目:1日高校体験(2回目)
- 8日目:ホストファミリーとの交流
- 9日目:研修発表・送別会
- 10日目:バーモント州を出発!

10日間ずっと
ホームステイ
です

● 生徒の感想 (レポートより抜粋)

鳥取湖陵高校 1年生 **小山 春佳さん**

大切なのは伝える意思と理解しようとする
意思だと思いました。
アメリカでできた友達はみんな、私の下手な
英語でも聞き取ろうとしてくれたし、わかりやすく話してくれました。
その優しさが本当に嬉しかったです。



境高校 2年生 **川西 瑠奈さん**

まだまだ日本人は外国人に対して線を引い
たり、一歩引いてしまったりしているので
それが無くなって、よりたくさんの方の人
たちと繋がることができる国にしたいです。鳥取県もそのような
県になるように私が作っていきたくて思いました。



話してみよう 韓国語 第11回 鳥取大会

今年度は、全国8会場で熱戦が繰り広げられる中、鳥取大会には山陰各地の韓国通19組38名が米子コンベンションセンターに集結。台本を暗記して二人一組で役を演じる…ちょっと変わったかたちのスピーチコンテスト。出場者は韓国語を習い始めた初級者からコツコツと勉強を継続してきた中級者までの皆さんです。この大会で得られる“達成感”とペアとの“絆”、そして指導者への“信頼”と“感謝の気持ち”は、韓国語の更なる向上を目指す方々にとって大きな励みとなっています。

発表終了後の文化公演では、韓国・忠清北道(チュンチョンブット)から駆けつけてくださった世界中で活躍する「サムルノリ・モルゲ」の皆さんの演技を堪能しました。チャンゴやケンガリなどの民俗楽器を使い、多様なリズムにのせて表現するその卓越した技と、カヤグムの伴奏にのせて響く張りのある歌声に会場は魅了されました。

■開催日 / **2015年12月19日(土)**
■会場 / **米子コンベンションセンター**

【最優秀賞】

中高生スキット部門 池信 風香さん・深田 みのりさん
一般スキット部門 高木 恵里さん・杠 真沙美さん



【写真左上】
中高生スキット部門(最優秀賞)
※3月12日に東京で開催される
全国大会へ!
【写真右上】
一般スキット部門(最優秀賞)
【写真左下】パンクッ

次回はあなたも挑戦してみませんか?!

鳥取県の留学生について知りたい!

鳥取県内には、現在約200名の留学生が高等学校、工業高等専門学校、大学で学んでいます。鳥取県には、どれくらいの留学生がどのように学んでいるのでしょうか。今回は留学生の基礎データ、日ごろの暮らしぶりなど各方面からご紹介します。

教育機関別在籍留学生数



(平成27年末現在)

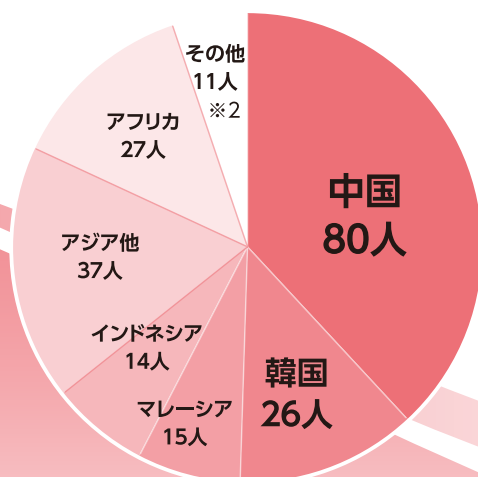
大学等	鳥取大学	180名	206名
	公立鳥取環境大学	13名	
	米子工業高等専門学校	13名	
高等学校	鳥取敬愛高校	2名	4名
	倉吉東高校	1名	
	鳥取中央育英高校	1名	
合計		210名	

外国人留学生の推移(大学等) ※1



学校名	昭和55年	昭和60年	平成元年	平成5年	平成10年	平成15年	平成20年	平成25年	平成27年
鳥取大学	3	8	46	94	139	175	179	162	180
公立鳥取環境大学	-	-	-	-	-	1	-	5	13
鳥取短期大学	1	-	4	6	9	16 (平成14年)	1	-	-
米子工業高等専門学校	-	-	5	9	4	7	6	12	13

国・地域別在籍状況 ※1



今回の調査で、鳥取県には平成27年末現在、210名の留学生が学んでいることが分かりました。国・地域別に見ると、中国、韓国で全体の半数を占めています。全体ではアジア、アフリカからの留学生が多いようです。ただ国・地域数では世界33カ国となり、様々な国や地域から留学生がここ鳥取県に来て学んでいるのです。

※1:鳥取県国際交流財団による各大学等への聞き取り調査
 ※2:ヨーロッパ、中近東、北中南米、オセアニア

教えて!鳥取での生活

鳥取県国際交流財団では、県内の大学等に在籍する私費留学生15名に対し、奨学金を支給し、勉学生活を支援しています。(115号に掲載)今回は今年度奨学生の皆さんにご協力いただき、鳥取県での暮らしぶりについて教えてもらいました。



■住まい

- ①民間のアパート11人
- ②大学の寮(国際交流会館等)4人

■毎月の食費

- ①1万円以内1人
- ②2~3万円9人
- ③3万円以上5人

■アルバイトは

- ①している9人
- ②していない6人

* (①と答えた人に)頻度は?

- ・週1日1人
- ・週4日以上4人
- ・週2,3日4人

■主な出費は(複数回答)

- ①食費12
 - ②家賃11
- ※その他・・・光熱水費、携帯電話、インターネット、書籍の購入費

民間のアパートに住んで、アルバイトをしながら、月2~3万円の食費で暮らしているというのが多数派のようです。(月1万円以内の食費で暮らしている人もありました!)

鳥取県に留学して



カイ イン モンさん (ミャンマー出身)
【鳥取大学 医学系研究課博士課程2年】

大学院で生殖医療を学んでいます。来日当初、ミャンマー人の学生は私だけで日本語も全く話せなかったため、コミュニケーションもままならず孤独を感じました。でも日本語を勉強する機会に恵まれ、数か月後には何とか

やっていけると思うようになりました。

米子は美しい自然に恵まれた小さな町で、勉強するには良い環境です。医学のこと以外にも、花見をしたり、雪の上を歩いたり、ミャンマーではできない日本文化や伝統行事を体験しました。米子での日々は充実しています。

博士課程修了まで、残すところあと2年となりました。私にとって日本での生活は、独立心を養い、忘れがたい時間を与えてくれています。



▲桜の木の下で



オウ エイ キョウ

王 睿京さん

【公立鳥取環境大学
経営学部
経営学科2年】
(中国出身)

最初、鳥取に来たばかりのときは、あまりにもシンプルな鳥取に少しがっかりしていました。

でも大学や鳥取県国際交流財団を通して学外学習やいろんなボランティア活動に参加できたことで、充実した日々を送っているうちに鳥取ならではの素晴らしさがだんだん分かってきました。そこで鳥取の良さをもっと中国にも伝えたいと思い、ボランティア活動で撮ったビデオや写真をツイッター、フェイスブックに載せたところ好評でした。

たくさんいい思い出ができて本当に鳥取に感謝しています。



ジ・スンアさん (韓国出身)
【鳥取大学地域学部 特別聴講生1年】

日本に来てからもう半年が過ぎました。

韓国国内を旅行することも怖かった私にとって日本への留学を決めることはとても難しいことでした。しかし、そんな心配はちょっとだけ鳥取の穏やかな空気や優しい鳥取の人々のおかげで、すぐに慣れました。

以前から海の近くに住んでみたいと思っていたので、鳥取は海だけでなく池もあり、自然を感じる場所が多く気に入っています。

残り半年、私の目標はもっと日本人と交流して日本語の実力を上げることと、一生懸命勉強して日本語能力試験N1の合格證書を持って韓国に帰ることです。



▲近所の公園にて



青山剛昌
ふるさと館にて▶